

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-8024

(P2007-8024A)

(43) 公開日 平成19年1月18日(2007.1.18)

(51) Int.Cl.

B 4 2 D 5/04 (2006.01)

F I

B 4 2 D 5/04

D

B 4 2 D 5/04

G

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2005-192094 (P2005-192094)

(22) 出願日 平成17年6月30日(2005.6.30)

(71) 出願人 504278411

株式会社アニック

東京都文京区本郷3丁目21番8号

(71) 出願人 505249506

横関 和生

東京都文京区本郷3丁目21番8号 株式会社アニック内

(74) 代理人 100087446

弁理士 川久保 新一

(72) 発明者 横関 和生

東京都文京区本郷3丁目21番8号 株式会社アニック内

(54) 【発明の名称】 パソコン用カレンダー装置

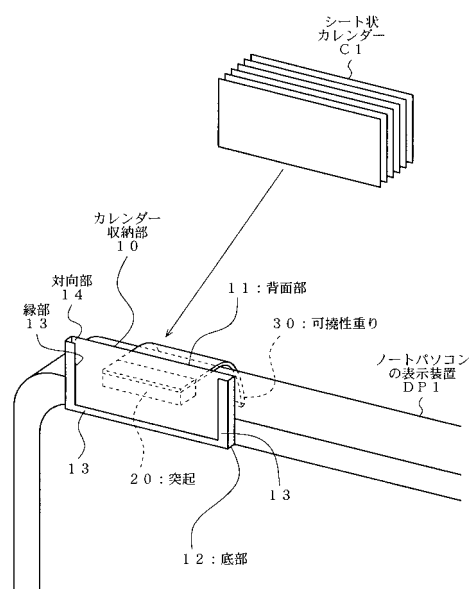
(57) 【要約】

【課題】 パソコンの使用者が、現在見ている画面を切り換えずに、カレンダーを見ることができ、しかも、パソコンの使用者の視線を少しずらすだけでカレンダーを見ることができるパソコン用カレンダー装置を提供することを目的とするものである。

【解決手段】 1枚のシートに1ヶ月分または複数ヶ月分が印刷されているシート状カレンダーと、上記シート状カレンダーを複数枚、収納するカレンダー収納部と、上記カレンダー収納部をパソコンに取り付ける取付手段とを有することを特徴とするパソコン用カレンダー装置である。

【選択図】 図1

100 : パソコン用カレンダー装置



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

1 枚のシートに 1 ヶ月分または複数ヵ月分が印刷されているシート状カレンダーと；
上記シート状カレンダーを複数枚、収納するカレンダー収納部と；
上記カレンダー収納部をパソコンに取り付ける取付手段と；
を有することを特徴とするパソコン用カレンダー装置。

【請求項 2】

請求項 1 において、

上記取付手段は、上記カレンダー収納部の背面部または底部に固着されている重りであって、上記シート状カレンダーを収納している上記カレンダー収納部を起立させておくことができる程度の重量を具備する重りであることを特徴とするパソコン用カレンダー装置。 10

【請求項 3】

請求項 1 において、

上記重り可撓性の重りであることを特徴とするパソコン用カレンダー装置。

【請求項 4】

請求項 1 において、

上記取付手段は、上記パソコンの画面の周辺に、上記カレンダー収納部を貼り付ける手段であることを特徴とするパソコン用カレンダー装置。

【請求項 5】

請求項 1 において、

上記取付手段は、上記パソコンの画面の周辺を挟む把持手段であって、上記カレンダー収納部に固定されている把持手段であることを特徴とするパソコン用カレンダー装置。 20

【請求項 6】

請求項 1 において、

上記取付手段は、上記パソコンの画面の周辺に、上記カレンダー収納部を引っ掛ける手段であることを特徴とするパソコン用カレンダー装置。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、パソコン用カレンダー装置に関する。 30

【背景技術】**【0002】**

従来、パソコンを使用して作業しているときに、カレンダーを見る必要が生じた場合、パソコンは通常、カレンダー機能を具備しているので、画面を切り替え、カレンダー機能を起動し、カレンダーを画面に表示し、予定とする日にちの曜日を見る（たとえば、特許文献 1 参照）（たとえば、特許文献 1 参照）。

【0003】

または、パソコンを使用して作業しているときに、カレンダーを見る必要が生じた場合、何月の第何日曜日が何日である等を知り、この後に、元の画面に切り替え、今までの作業を続行する。 40

【0004】

また、カレンダーを再び見る必要が生じれば、上記と同様に、カレンダー画面に切り替え、その後に、今までの画面に切り替え、作業を続行する。

【特許文献 1】特開平 2001 - 296942 号公報**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

つまり、従来例において、所定の作業中にカレンダーを見る必要が生じると、その都度、画面を切り換える必要があり、この画面切換作業が煩雑であるという問題がある。

【0006】

一方、パソコンを使用する部屋の壁には、通常、壁掛けカレンダーが吊り下げられ、パソコン作業中に、カレンダーを見る必要が生じれば、パソコン画面から視線を、上記壁掛けカレンダーに移し、日にち、曜日等を確認した後に、パソコン画面に視線を戻し、作業を続行する。

【0007】

この場合、作業中に、パソコン画面を切り換える必要はないが、上記壁掛けカレンダーが、パソコン作業者の真横の壁、後ろの壁等、パソコン作業者から見て、パソコン画面の方向と、壁に設置されている上記壁掛けカレンダーの方向とは、大きく異なることが多いので、この場合に、パソコン作業者は、壁掛けカレンダーを見るために、視線を大きくずらす必要があり、カレンダーを見る都度、上記視線移動することが煩雑であるという問題がある。 10

【0008】

本発明は、パソコンの使用者が、現在見ている画面を切り換えずに、カレンダーを見ることができ、しかも、パソコンの使用者の視線を少しずらすだけでカレンダーを見ることができるパソコン用カレンダー装置を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明は、1枚のシートに1ヶ月分または複数ヵ月分が印刷されているシート状カレンダーと、上記シート状カレンダーを複数枚、収納するカレンダー収納部と、上記カレンダー収納部をパソコンに取り付ける取付手段とを有することを特徴とするパソコン用カレンダー装置である。 20

【発明の効果】

【0010】

本発明によれば、パソコンの使用者が、現在見ている画面を変化させずにカレンダーを見ることができ、しかも、パソコンの使用者の視線を少しずらすだけでカレンダーを見ることができるという効果を奏する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

発明を実施するための最良の形態は、以下の実施例である。

【実施例1】

30

【0012】

図1は、本発明の実施例1であるパソコン用カレンダー装置100を示す分解斜視図である。

【0013】

パソコン用カレンダー装置100は、シート状カレンダーC1と、カレンダー収納部10と、突起20と、可撓性重り30とを有する。

【0014】

シート状カレンダーC1は、1枚または複数枚のシートで構成され、1枚のシートに、1ヶ月分または複数ヵ月分が印刷されているシート状カレンダーの例である。

【0015】

40

カレンダー収納部10は、シート状カレンダーを複数枚、収納するカレンダー収納部の例であり、その素材は、合成樹脂であり、透明であっても、透明でなくてもよい。また、カレンダー収納部10は、背面部11と、底部12と、縁部13とを有し、背面部11と縁部13とによって、対向部14が形成され、この対向部14に、シート状カレンダーC1が、挟まれた状態で、カレンダー収納部10に収納される。

【0016】

突起20は、カレンダー収納部10に可撓性重り30を取り付けるためのものである。

【0017】

可撓性重り30は、カレンダー収納部10をパソコンPCに取り付ける取付手段の例である。可撓性重り30は、やや厚手の合成樹脂で構成され、シート状カレンダーC1より 50

も、重く、また、可撓性重り 30 の重心が、シート状カレンダー C 1 とカレンダー収納部 10 との重心よりも低く設定されている。

【0018】

次に、パソコン用カレンダー装置 100 をノートパソコンの表示装置 D P 1 に取り付ける方法について説明する。

【0019】

まず、カレンダー収納部 10 にシート状のシート状カレンダー C 1 を複数枚、挿入し、ノートパソコンの表示装置 D P 1 の頂部に、シート状カレンダー C 1 を縦にした状態で、載置する。この場合、カレンダー収納部 10 の背面に、突起 20 が固定され、この突起 20 に可撓性重り 30 の端部が固定されているので、突起 30 を介して、可撓性重り 30 が 10
カレンダー収納部 10 に固定されている。

【0020】

したがって、パソコン用カレンダー装置 100 をノートパソコンの表示装置 D P 1 の上面（頂部）に載置すると、シート状カレンダー C 1 を含めたカレンダー収納部 10 が起立した状態を維持する。

【0021】

この場合、カレンダー収納部 10 をパソコンの表示装置 D P 1 に載置する際に、粘着剤等を使用する必要がないので、その設置が容易である。なお、パソコンを使用する環境では、強い風が生じること少なく、したがって、シート状カレンダー C 1 を含めたカレンダー収納部 10 が起立した状態を維持することが容易である。 20

【0022】

図 2 は、パソコン用カレンダー装置 100 の側面図である。

【0023】

図 2 に示すように、パソコン用カレンダー装置 100 に使用されている可撓性重り 30 は、ノートパソコンの表示装置 D P 1 が薄い場合でも、その薄さに適合するように、形状を自在に変化させることができる。

【0024】

図 3 は、パソコン用カレンダー装置 100 を、卓上パソコンの表示装置 D P 2 に載置した場合の側面図である。

【0025】

パソコン用カレンダー装置 100 を、卓上パソコンの表示装置 D P 2 に載置した場合、卓上パソコンの表示装置 D P 2 の奥行きが長いが、可撓性重り 30 が、卓上パソコンの表示装置 D P 2 の形状に合わせて、取り付けられるので、卓上パソコンの表示装置 D P 2 の形状に、可撓性重り 30 の形状が適応し、パソコン用カレンダー装置 100 の取付安定性が高い。 30

【0026】

つまり、パソコンの表示装置がどのような形状であっても、可撓性重り 30 が充分に対応するので、パソコン用カレンダー装置 100 の取付安定性が高い。

【0027】

すなわち、パソコン用カレンダー装置 100 によれば、パソコンの使用者が、現在見ている画面を変化させずにカレンダーを見ることができ、しかも、パソコンの使用者の視線を少しずつただでカレンダーを見ることができる。 40

【0028】

また、可撓性重り 30 の代わりに、やや厚手の合成樹脂板と、蝶番とを設けるようにしてもよい。上記蝶番は、カレンダー収納部 10 の背面と上記やや厚手の合成樹脂板とを固着し、カレンダー収納部 10 に対して、やや厚手の合成樹脂板を回動自在にするものである。なお、上記蝶番の代わりに、その部分だけ、可撓性の高い材質の樹脂を使用するようにしてもよい。

【0029】

さらに、可撓性重り 30 を、鉛で構成するようにしてもよく、また、合成樹脂のシート 50

に、金属等、比較的比重の大きな材料を取り付けたものを使用するようにしてもよい。

【実施例 2】

【0030】

図 4 は、本発明の実施例 2 であるパソコン用カレンダー装置 200 の斜視図である。

【0031】

パソコン用カレンダー装置 200 は、基本的には、パソコン用カレンダー装置 100 と同じであり、可撓性重り 30 がカレンダー収納部 10 に直接固定されている点が、パソコン用カレンダー装置 100 とは異なる。

【0032】

つまり、パソコン用カレンダー装置 200 は、シート状カレンダー C1 と、カレンダー収納部 10 と、接着剤 21 と、可撓性重り 30 とを有する。 10

【0033】

接着剤 21 は、液状接着剤でもよく、両面接着テープであってもよい。

【0034】

なお、パソコン用カレンダー装置 200 において、接着剤 21 を、カレンダー収納部 10 の、図 4 中、底部に設け、カレンダー収納部 10 の底部に、可撓性重り 30 の端部を固着するようにしてもよい。

【0035】

パソコン用カレンダー装置 200 によれば、パソコンの使用者が、現在見ている画面を変化させずにカレンダーを見ることができ、しかも、パソコンの使用者の視線を少しずらすだけでカレンダーを見ることができ、また、突起 20 を使用しないので、パソコン用カレンダー装置 100 よりも、その構造が簡素である。 20

【実施例 3】

【0036】

図 5 は、本発明の実施例 3 であるパソコン用カレンダー装置 300 を示す図である。

【0037】

図 5 (1)、(2)、(3) は、それぞれ、パソコン用カレンダー装置 300 の正面図、平面図、右側面図である。

【0038】

パソコン用カレンダー装置 300 は、基本的には、パソコン用カレンダー装置 200 と同じであるが、可撓性重り 30 を使用せず、カレンダー収納部 10 を、パソコンの表示装置 DP1 の前面 (パソコン使用者がパソコン使用時にパソコンと対峙する面) に固着する点が、パソコン用カレンダー装置 200 とは異なる。 30

【0039】

つまり、パソコン用カレンダー装置 300 は、シート状カレンダー C1 と、カレンダー収納部 10 と、両面テープ 22 とを有する。両面テープ 22 は、カレンダー収納部 10 の背面に、その片面が固着されている。両面テープ 22 の他面が、パソコンの表示装置 DP1 の前面と平行な面 (表示面の周面) に貼り付けられる。

【0040】

パソコン用カレンダー装置 300 によれば、パソコンの使用者が、現在見ている画面を変化させずにカレンダーを見ることができ、しかも、パソコンの使用者の視線を少しずらすだけでカレンダーを見ることができ、また、突起 20 も可撓性重り 30 をも使用していないので、パソコン用カレンダー装置 300 全体の構造が簡素である。 40

【実施例 4】

【0041】

図 6 は、本発明の実施例 4 であるパソコン用カレンダー装置 400 を示す図である。

【0042】

図 6 (1) は、パソコン用カレンダー装置 400 の斜視図であり、図 6 (2) は、パソコン用カレンダー装置 400 の側面図である。

【0043】

パソコン用カレンダー装置 400 は、基本的には、パソコン用カレンダー装置 300 と同じであるが、カレンダー収納部 10 を、ノートパソコンの表示装置 DP1 の前面と平行な面に貼り付けるのではなく、表示装置 DP1 の上面、側面に貼り付ける点が、パソコン用カレンダー装置 300 とは異なる。

【0044】

つまり、パソコン用カレンダー装置 400 は、シート状カレンダー C1 と、カレンダー収納部 10 と、両面テープ 23 とを有する。両面テープ 23 は、カレンダー収納部 10 の底面に、その片面が固着されている。両面テープ 23 の他面が、パソコンの表示装置 DP1 の上面または側面（表示面の周面）に貼り付けられる。

【0045】

パソコン用カレンダー装置 400 によれば、パソコンの使用者が、現在見ている画面を変化させずにカレンダーを見ることができ、しかも、パソコンの使用者の視線を少しずらすだけでカレンダーを見ることができ、また、突起 20 も可撓性重り 30 も使用していないので、パソコン用カレンダー装置 400 全体の構造が簡素である。

【0046】

図 7 は、本発明の実施例 4 であるパソコン用カレンダー装置 400 をデスクトップパソコンに取り付けた場合を示す斜視図である。

【0047】

図 7 では、パソコン用カレンダー装置 400 を、デスクトップパソコンの表示装置 DP2 に取り付けた例と、デスクトップパソコンのキーボード KB に取り付けた例とを示している。

【0048】

なお、上記各実施例の他に、パソコンの表示装置の一部を挟む把持手段を設け、この把持手段にパソコン用カレンダー収納部 10 を設けるようにしてもよい。上記把持手段としては、クリップ、洗濯バサミ等が考えられる。

【0049】

さらに、パソコンの表示装置の一部（表示装置の周辺、上部、下部または側面）に、引っ掛けるフック等の引っ掛け手段を、上記カレンダー収納部 10 に設けるようにしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0050】

【図 1】本発明の実施例 1 であるパソコン用カレンダー装置 100 を示す分解斜視図である。

【図 2】パソコン用カレンダー装置 100 の側面図である。

【図 3】パソコン用カレンダー装置 100 を、卓上パソコンの表示装置 DP2 に載置した場合の側面図である。

【図 4】本発明の実施例 2 であるパソコン用カレンダー装置 200 を示す斜視図である。

【図 5】本発明の実施例 3 であるパソコン用カレンダー装置 300 の図である。

【図 6】本発明の実施例 4 であるパソコン用カレンダー装置 400 の図である。

【図 7】本発明の実施例 4 であるパソコン用カレンダー装置 400 をデスクトップパソコンに取り付けた場合を示す斜視図である。

【符号の説明】

【0051】

- 100、200、300、400 ... パソコン用カレンダー装置、
- 10 ... カレンダー収納部、
- 11 ... 背面部、
- 12 ... 底部、
- 13 ... 縁部、
- 20 ... 突起、
- 21 ... 接着剤、

10

20

30

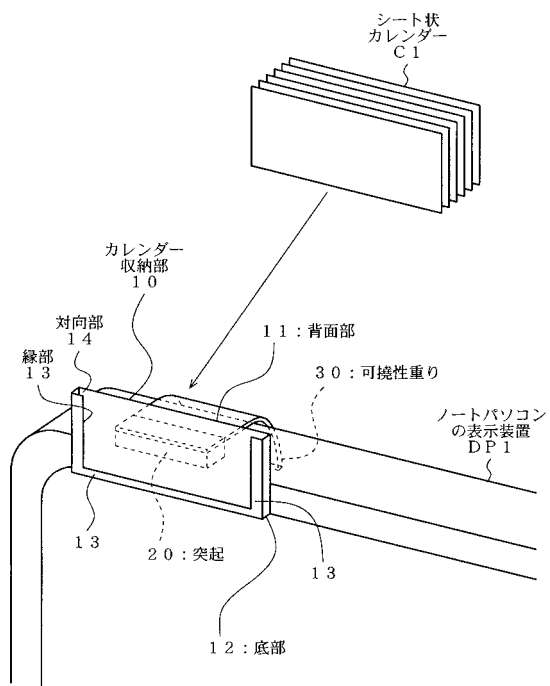
40

50

2 2、2 3 ... 両面テープ、
 3 0 ... 可撓性重り、
 D P 1 ... ノートパソコンの表示装置、
 D P 2 ... デスクトップパソコンの表示装置、
 K B ... キーボード。

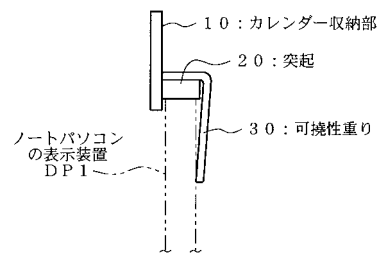
【図 1】

1 0 0 : パソコン用カレンダー装置



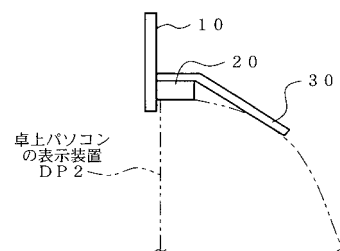
【図 2】

1 0 0



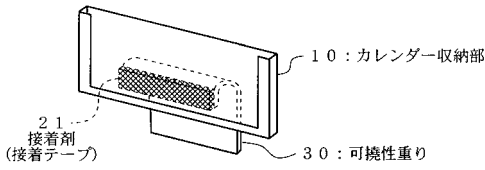
【図 3】

1 0 0



【図 4】

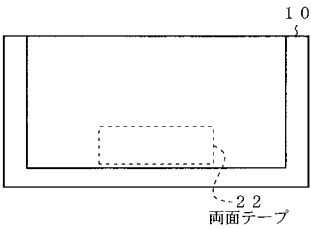
200：パソコン用カレンダー装置



【図 5】

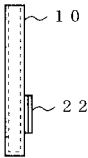
(1)

300：パソコン用カレンダー装置



(3)

300



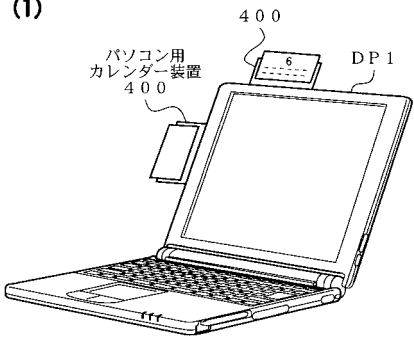
(2)

300

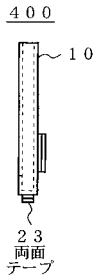


【図 6】

(1)



(2)



【図 7】

